

「ひじで開けられるトイレのドア」開発プロセスをご紹介します!

手を触れずに開けられるドアの実用化に向け、商品企画部の牧克巨を中心に、新しいタイプのハンドルとロックを開発しています。羽田空港で試作品を展示し、お客様アンケートも実施。いただいたご意見をもとに「お客様とともに」新しい空のスタンダードを創る」ことにもこだわりました。

「あんしん」を形に!



今日は、私をご紹介します!



西村拓哉 リポーター
ANA 商品企画部
「現場・現物・現実を大切に、お客様へあんしんをお届けします!」

空の「あんしん」を創る Ver.2

業界初! ひじで開ける機内トイレのドアの開発

6 最終試作品が完成!

「ひじで開けられるドア」が誕生

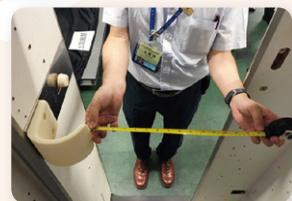
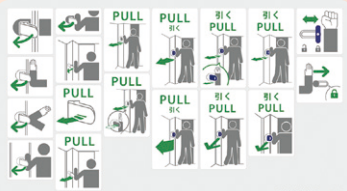
着想から約2か月で、最終的な試作品が完成しました!



5 改良、改良!

最適な形や動きを追求

直接話を聞いたり、実証中のビデオをチェックして実験の際に改良を重ねました。開け方が分かるようブラカードも製作し、使いやすさを追求しました。



4 実証実験

想定外の反応から得た気づき!

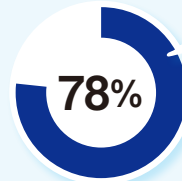
「JAMCO」社内でモニター実験を開始したところ、ドアを押して出ようとしたら、握ってしまう人が続出。手を使わなくても開けられると簡単に分かる形状にすることがポイントでした。

1 きっかけ

シートや空調とともに「トイレ」に不安!

「IATA(国際航空運送協会)」の感染症に関する調査*1によると、サービスに関することよりもトイレに不安を感じているという結果が明らかになりました。

*1 [Passenger insights in the times of a pandemic Issue 1-Highlights]



トイレに関しては約8割の方が不安

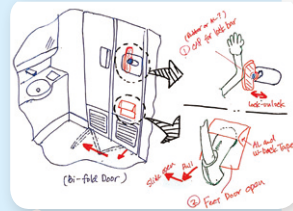
2 ひらめき

足で機内のトイレのドアを開ける

足で開けられる冷蔵庫のドアをヒントに、機内のトイレにも導入できるのではないかと発案しました。



牧 克巨
商品企画部



牧が考案した手描きイメージ

3 検討&試作

7種類の試作品を製作

航空機の内装メーカーの「JAMCO」に相談したところ、揺れる機内で足を使い操作するのは不安定で難しく、結果的にひじでの操作に絞り進めることに。両社の想いが重なって、発案から部品サンプルが揃うまでの期間は、わずか2週間。7種類の試作品ができました。



左から、ANA商品企画部の牧克巨とJAMCOの大栗強さん



手を使わない設備は そのほかにも!

定期的な清掃・消毒に加え、国際線の全機材、国内線の中・大型機を中心にセンサー式蛇口を備えています。ボーイング787型機では、センサー式洗浄スイッチを設置。その他の一部の機材では、足踏み開閉式のゴミ箱蓋も導入しています。



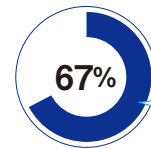
センサー式蛇口



センサー式洗浄スイッチ

「ひじで開ける」新様式、使い勝手は?

試作品のアンケート*2に回答いただいた568名のうち、約7割の方から手を使わないことに「良い」と評価をいただきました。様々な意見をもとに、導入に向けて検討を進めています。



Q: 「腕やひじを使って退出できるドアについてどう思いましたか?

「腕やひじを使えるのが良い!」

「よいものを!」



*2 ANA「タッチレスラバトリードアハンドル モックアップ」アンケート結果(2020年7月21日~9月4日)

より「あんしん」してご利用いただくための挑戦!

こんにちは、商品企画部の西村拓哉です。ANAでは、清潔で衛生的な環境づくりに向けた「ANA Care Promise」の一環として、手を触れずに作動する設備の導入を進めています。商品企画部内では「お客様の感染への不安を軽減するために、貢献できることはないか」と考え続ける中、手を使わず足で開閉できるコンビニの冷蔵庫のドアに商品開発のヒントを得ました。早速、航空機の内装メーカー「株式会社ジャムコ」(以下「JAMCO」)と検討を重ね、機内トイレのドアをひじで開けられるハンドルとロックの開発に着手。調査、検証、改良を経て、ついに試作品が完成しました。完成した新様式のハンドルは、手に比べ、鼻や口などに触れる頻度が少ない「ひじ」を使ってドアを開けられるため、接触感染のリスクを低減できると考えています。

このように、目に見える形での対策を進め、設備面においても常に進化を目指しています。そして飛行機をご利用いただく際の感染症への不安を軽減し、快適にお過ごしいただけるよう、これまで以上の「あんしん」を創ってまいります。